常磐毎日新聞
日刊
五月三十一日夕刊
定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢 場所指定一行七拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 （振替口座）東京 四〇二二〇番

諸橋久太郎氏が 日本館寄附
公會堂傍らに建設 一段と偉力を發揮

平市の力を表象する公會堂の建設は既記の如く物價高に災され是れが財源を求むる爲め建設委員が連日寄附募集に狂奔中であつたが、當初の計劃に基き本館の南側に併立する四十八疊敷二間、控室配膳室等を有する日本館の建設は遂に絶望視さるゝに至つた爲め青沼市長野崎、蓮沼正副議長、其他各建設委員等が富豪諸橋久太郎氏に此の窮狀を詳細訴へた處、同氏も子々孫々に傳ふべき『吾等の公會堂』に日本館の無いのを遺憾とし本日午前十時自宅に於て前記各氏と會見、日本館の建設費全額寄附を承諾し玆に公會堂は一段とその偉力を發揮して出現する事が確定的となつた

小名濱と平市を 結ぶ生命線
送電線近く使用認可

商港や日曹工場の實現に依つて新興工業地として飛躍的發展を遂げて居る小名濱港と平市を結ぶ最大電壓六萬六千ボルトの大送電線は大日本電力株式會社の建設にかゝり工事が完成したので近く使用認可の運びとなり目下仙遞豊口電氣課長が檢査を急で居るが同送電線は今年中に出來上る小名濱の日本水素工業株式會社の工場熱利用の大火力發電所（一萬五千キロ）工事用電力と二本松電氣の供給改善のため當分五萬五千ボルトを使用、更に該火力發電所完成の曉には火力と大日本電力の水力發電所の經濟的運轉の連絡送電に當てるもので躍進小名濱の生命線をなすものとして注目されて居る

夏井村會

夏井村會は二十九日開き三百五十円で小學校一學級の增加を決議

牛乳を値上

石城牛乳協會はこの程役員會を開き物價騰貴による前後策を協議したが今六月一日から一合につき一錢の値上を斷行すると

青年校公民講習

平市及び郡下青年學校の修身並に公民科要目の徹底を期す講習會は六月六日午前九時から平第一校講堂に開かれるが、講師は要目編纂委員東京文理科大學教授綿貫哲雄氏である尙午後三時閉會後右項目の研究協議青年學校の振興に關し協議する筈

不審男檢擧 意外な捕者
時局を種に詐欺

三十日夜九時頃平市南町地內を徘徊中の擧動不審の男を平署員が檢擧取調べると右は宮城縣柴田郡槻木町生れ前科二犯佐藤蓑作（三一）と云へ此者は去る三月二十二日夜小名濱町定西雜貨商永地弘氏方から獨一番（價格四百圓）を窃取處分に困つて撲殺した外江名町中之作漁業吉田清治氏方に雇はれ中「自分は今後出征するんだ」と主人に僞電報を打つて主人及び知人數名から錢別を詐取した事自白餘罪ある見込みで嚴重取調べ中

若鮎の魅力 愈よ明日解禁
喜べ！豊漁の便り！

〝鮎〟いよ／＼明一日から解禁――初夏の淸流に遊飛する銀鱗、プンと鼻へ來る香り、鹽燒によしフライも妙、さんばい、魚でん、あらひ、何でも御座れ、まさに味覺の王座だ、今年は春暖が早く來たのと溯上期に適當の增水があつたため雅鮎の溯上申分なく瀬をのぞけば勿來四時川には十萬尾が放流され、四寸、六寸の若鮎がひしめき合ひつゝ先を爭ひ溯つて行くのが手にとるやうに見える釣マニアも漁業家も喜べ／＼、今年の鮎は豊漁だ！、勿來四時川は△六月十日から十二月末迄△期間中一圓五十錢△船一船頭付三圓、ナシ一圓△どぶ釣り、とも釣り△放流十萬尾亦山田村地內鮫川上流は△六月一日から九月十五日迄△期間中一圓五十錢△放派五萬尾△とも釣り、どぶ釣り△植田驛からバスの便あり

福來氏以下 小名濱引上

小名濱港修築に甚大な精勵を盡くされた內務省染港事務所長福來氏外所員十三名は今三十一日事務所を引拂ひそれ／＼任地に向け轉勤する事となつたので小野町長發起で三十日午後二時から同町小學校講堂に於て送別會を開き出席者四百名で頗る盛會裡に同四時散會した

社告

強震被害の復舊作業中御覽の体裁御寛容願ひます
常磐毎日新聞社

家出男二人

市內一丁目富士食堂綠川茂方出前持今野勇（一九）は去る二十八日午前十時頃無斷家出した儘又田村郡御鏡村久長男植田龜久（一九）は去る四日家出炭礦方面に働へてゐるらしいと今三十一日平署へ搜索方を願ひ出た

ラヂオ JOHK

▽後六、〇〇（子供の時間）動物物語「銀の星」大阪教育童話研究會
▽後六、二五 講演「科學のイビック」工博加藤與五郎
▽後八、四〇 俚謠「追分節」外 三上千代太郎
▽後八、五五 浪花節「天保六花撰」木村友信

明日の部

▽後〇、〇〇 和洋合奏 舞曲「猫ぢやれ」外 ミクニ和洋合奏團
▽後二、〇〇 對話劇「樺太と臺灣」ムサシノ會
▽後三、〇〇 母の時間 鄕土の子守唄」
▽後三、二〇 教師の時間「學校唱歌指導講座」鳥居忠五郎
▽後六、〇〇（子供の時間）物語劇「大阪城」大阪放送童話劇研究會
▽後六、二五 講演「戰時國策と民間の協力」河田嗣郎
▽後七、三〇 國民歌謠
▽後八、〇〇 連續新講談「糸の亂れ」栗島狹衣
▽後八、三〇 漫才「僕の親心」横山エンタツ
▽後八、五〇 義太夫「假名手本忠臣藏」竹本津太夫

白柄劍風連

大島多慶夫作
井川洗厓畫
[illegible]布施長春[illegible]
[illegible]村[illegible]參映畫

……四五一……

長兵衛旅立ち（二）

驀地に走つて來た身内の者の仁三は、長兵衛の姿を行手に認めて
『おゝ元締、元締』
と、四方を憚らずに大きな聲で後ろから呼び止めたのであつた。
聲は仁三だと思つたが、何事と長兵衛は急に振返つた。
『何だ仁三、大きな聲で……何事が起つたのだ』
と、聲をひそめて訊く。
息せき切つて漸く追ついた仁三は、拳で胸を叩きながら、
『大、大變でござんす、芝居で喧嘩を……大喧嘩を……？』
と、長兵衛は急に顔の色を險しくさせた。そして、いきなり仁三の腕をグッリ摑んで引寄せた。
『誰と喧嘩をしたのだ』

『誰、旗本奴で……白、白柄組でございますよ』
『白柄組……その白柄組の誰だ』
『そ、それは判りませんが……何でも七八人は居りました』
『此方は誰が最先に手を出した』
『金剛の兄貴が……？』
『また金剛か、彼奴は何うして喧嘩が好きなのだらう、あんなにいましめてあるのにな』
と、長兵衛は吐き出すやうに云つて苦苦しく溜息をついた。
仁三は、吃りながら細かに喧嘩の成行を語つたが、それに依ると白柄組の方から喧嘩を吹ッ掛けたらしい形跡があつた、つまり、放れ駒四郎兵衛の贔屓にしてゐる俳優の萩野猷女之丞に對して、白柄組の何人であるか知れないが、杯を投げつけたと云ふのであつた。
そこで、四郎兵衛は赫ッと怒るし、見物人も肝腎の舞臺を邪魔されたので怒り出した。それを白柄組の人々は紫町人ども生意氣だと云つてあげつらつたから、金剛の長五郎が見兼て飛び出して、花道で見物人の町人を散々に打擲してゐる白柄組の一人を投げつけて了つた。これに喧嘩の花が咲いて見物人は總立つ、芝居は中止になると云ふ始末、遂に白柄組と幡隨院身内の亂鬪となつたと云ふことが判つた。
『しかたがねえ、先方が豫め機會を狙つてゐて賣つた喧嘩だ』
と、長兵衛は呟きながら長太息をしたのであつた。
長兵衛の氣持では、折角大寄寺源太の肝入で十郎左衛門と昵懇の間柄となつたのであるから、白柄組と相結んで、腐敗江戸民衆の爲努力しやうと考へてゐた、又江戸へ潛行してゐる浮浪人の異圖を押へて、若し政治上の改革でもある場合には、民衆を基礎としての政治の必要をも考へてゐたのであるから、旗本奴と町奴の衝突は双方の間に溝をつくるばかりで、民衆のためには何の役に立たないと云ふことを痛切に考へさせられた
つまり、其の秘められた經綸を知らずに白柄組と喧嘩する身内の者共の盲動は、親の心子知らずであると齒痒くもあり又腹立たしくもあつた。
『仁三、お前、御苦勞だがな、これから芝居小屋へ戻つて行つて、喧嘩が大きくならないやうに、皆に引揚て來いと云つて呉れ、若し聞き入れない奴があつたら、杯は水にすると云つて俺が怒つてゐたと云ふのだ』
『えつ、元締、杯を水に……？』
『さうだ、あんなに厳しく云つてあるぢやねえか、どんなことがあらうと旗本とは喧嘩をしてはいけねえ、少しは旗本の立場も考へてやらなくつちやならねえ』

不滅のシンガン

（連載読物）

大仏次郎作

…第二十七回…

昂奮 (2)

「……ねんねちゃないけど、そんなに思ふの。だから私ね、いつまでも〳〵それを離はないでゐたいの。たとへ、Wになつても……無理でせうか？だつて〳〵けがらはしい……』

杳二は微笑を洩らした。と同時に心の中ではかう叫ばずにはゐられなかつた。

『彼女の心は、これだ〳〵！』

そして、

『たとへ、Wになつても』

といふところを振返して、彼女に見せると、静枝はそこを手で隠すやうに顔を伏せりをして、隅を外へ向けながら微笑つてゐた。

杳二は其の横に腰を移した。

『これ丈の足りないんでせう？靴が気心がないんでせうか？何うしたらいゝのも少し大膽になれと仰有るの？私、これでもずゐぶん大膽なつもりですのに……』

彼女の瞳が不思議に輝くなつたので、杳二が覗いて見ると、頬の上の雪に紅がさつたのであつた。黄色い光が美しくほうツと熱陽を帯るくした。

杳二は黙つた。彼女の彼も変れたのだ。

『まあ〳〵しく素晴らしい女！』

胸いつぱいに、杳二はさう心に呼んだのだつた。

それは一種驚嘆な、悲痛な叫びとも云へた。総ては元の儘であつた。

×　×

『あれ程熱烈な愛だつたんだがまるで二年と経かなかつたんだからな』

杳二は其の男と酷へ出来たといふことは誰かに聞いたことがあるが、彼等二人の生活がどんな風に変遷したものか、杳二は少しも知るところがなかつた。それに、自分が経つて見ると、彼も所にそれを知らうといふ興味が湧かなかつた。何うでもいゝと思つた。

杳子との結婚生活、彼の生活も可なり多彩だつたのだ。杳子とは静枝よりも前に既に結婚中絶しくなつて、淡い感らしいものゝ芽生えを見るには見たのだが、周囲の圧迫の為めにそれは伸び育たないで終んで行つたのだつた。

同時に、復讐心がムラ〳〵と燃え上つたのだつた。……それから、三年あまりの月日が二人の間に交渉に流れてゐるのだつた。

別れた後の静枝が、どんな生活をしてゐるか、杳二は考へるのをおかつた。

外科一般　レントゲン科
内臓外科　泌尿器科

北川外科

平市新川町二七（電話四六四番）

◎昼夜診療
イッデモ入院出來マス
（血液檢査毎日）

醫學博士　北川芳夫
技師　三浦常保

三井タクシー

平二　電話六八五番

◎評判の美味しい
〝みつ豆〟
蜂蜜入フルーツ　みつ豆
東京風アンみつ豆

電話二八番　福壽軒

◎此程……開店致しました
何卒御愛顧に願ひます

御料理　一良久

平市田町（元照よし跡）
電話三九九番

磐城セメント會社特約店

釜屋商店

磐城平市五丁目
電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は釜の生命なり

お節句飾りの！

値下げと正札賣に付謹告

端午の節句が近づきました。皇軍大捷國運旭日の勢を示す此の時、お子様の將來に幸を祈る尚武節句を盛大に行はれる事は誠に意義深い事と存じます。

銃後の護りは健康兒、兒童愛護の精神から…私達同業者相計り五月節句品の奉仕的大値下を斷行いたしました。尚時代に相應じ絶對懸引のない正札賣に改めお客様の安心して御買上願へる様にいたしました。

御用命は正札賣りの聯盟店へ仰付下さる様御願ひ申上ます。

平市節句飾販賣業聯盟（イロハ順）

平市三丁目　叶星加藤商店
平市四丁目　鱗與支店
平市二丁目　フクタヤ祝品部
平市三丁目　金太郎玩具店
平市四丁目　菅野屋肥料店
平市四丁目　スガノヤ提灯店

◇たべもので…一番清潔な牛乳
◇たべもので…一番榮養ある牛乳
◇たべもので…一番安價な牛乳

〝牛乳一合の價？
なんとそれは！
健康の特價提供〟

平市電話五一番
岡田ミルクプラント

愛市報國

一、我等の公會堂建設献金として
一、出征軍人慰問献金
◎賣出期間中御買上高の一部をお客様の御芳名記入の上献納致します
◇當藥局獨得のサービス…金壹円以上御買上の方に（但し化粧品は貳圓以上）
御家庭向實福袋進呈
◇オタノシミとして……福袋のうち幸運者は、東寶映畫藥館御招待券が當ります
◇戰地慰問の結合藥あります
キハツ油（小實）いたします

平市古館治町一〇番地　【電話四四番】

阿康藥局

藥劑師　阿部康雄

し出賣念記年週一制市平祝

期間……來ル6月3日ヨリ5日マデ3日間

美味・衛生的

夏！飲料界の王座

アイスキャンデー

始めました。値か一本……涼味が滿喫出來ます。是非御散歩がてら御出かけ下さい。

平市一丁目　電話一四一番

天保堂

▽是非！

御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般

三井質店

平四　電話六〇六番

御料理
〝むぎとろ〟
是非！御試食下さい
平市田町紅小路

さつき

三益隣り

▼…奉と共に開店致しました